

「そうだったのか！」今すぐ役に立つ。
わかりやすいから、今日からビジネスに応用できる



騙されたくないのに欺され続ける人たちは？



株式会社 サポートプロ 西田光弘



はじめに

■ 『ビジネスOSクイックアップデート』とは？

- 【ビジネスOSアップデート】という毎月開催している参加型講義を
 - ・ダイジェスト版
 - ・インスタントアップデート
 - ・クイックに効果を手に入れる

という目的で「わかりやすく」まとめたものです。

テーマ本編には一見ビジネス・商賣とは縁遠い単語が出てくることがあります。

それをいかに今すぐ自分のビジネスに結びつけるのか？と質問しながら聞いてみて下さい。



詐欺と贈与の社会学

今回のテーマは「騙されたくないのに欺され続ける人たち」です。

～本編から抜粋～

- 私たちは「誘惑されたいという無定形の欲望～秘密の共有」
- 形式的に道徳を説き他人から贈与や利便を引き出している

だから？これをどうやってビジネスに活かすのか？

最後に事業に活かす7つの質問があります。一回聞いた後に、7つの質問を自分に問い掛けて2回目を聞いてみて下さい。きっと「こうしよう」「今はここが課題だな」が浮かび上がってくるはずです。



個人とは？

■ 個人とは？

- 個人を規定するモノ＝社会
- 他を媒介して個人を特定できる
- 過去・社会に拘束される
- 個人として存在するには履歴を積み上げていかなければならない
 - ⇒ 学歴詐称など



資本主義・市場経済にどっぷり

- 等価＝正しい 不等価＝詐欺
 - 等価とはモノサシがあるということ
- 欺かれることの恐怖
- 市場一相対取引



自ら進んでだまされる我々

■ 詐欺

- 状況定義の情報量
- 情報操作能力

■ 無知だから欺されるのではない

- 進んで欺かれる
- 「神が手ずから人間性に植え付けた普遍的な欲望」



詐欺は一人では起こらない

■ 詐欺は一人では起こらない

- コミュニケーション＝詐欺が起こる可能性
 - バーやホテルの水割りや出逢い
 - 個人同士の水割り



純粹な詐欺師

■ 純粹な詐欺師の特質

- 履歴の放棄
 - 相対 変身は今ココ 個人はなく寛容・自由・公正・空間ない、
- 寛容
- 距離をゼロにしていく模倣は拒否 演技・演出
- 表層性と演技 非社会性 反復
- 社会的評価に無関心
- 財産は残さない 消費してしまう 個人と対極的な存在

■ 未来への架橋

- 個人を規定しない
- 別の世界への変身



詐欺師と同調者

- 履歴書は社会性 それが存在しない
- 貢ぎ続ける事例～一日でも長く～～～
- 相対である = 詐欺なのか贈与なのかわからない
- 事例: 便利屋右近さん
- 相手の波長に同調させることだけが問題である
- 権力にこだわらない = 社会性ゼロ
- 貢ぎたくなるような気にさせる香り = 長くは続かない 移動
 - スティング Catch me if you can
- 詐欺師と同調者の「純粋な」関係
- ⇒ 第三者 もしくは第三者の視点



道徳的詐欺とは

■ 道徳的詐欺師

- 世界の維持・理論体系化・意味づけようとする詐欺師

■ 宗教家・英雄は道徳的詐欺師

- モーゼ・モハメット・イエス(『三人の詐欺師論』)
- 水戸黄門
- 麻原彰光

■ 道徳的詐欺師の戦略

- 階層秩序・時間の観念・現実的触感・理想の世界・訓練・修行
- 「今、ここ」を閉ざし、未来に繰り越す



純粋な詐欺師と道徳的詐欺

■ 詐欺師としての異質性

■	純粋な詐欺師	道徳的な詐欺師	異質な点
■ そもそも	寛容	排他性	選別を行う・規範の設定
■ ありかた	自由・公正	道徳的正義	差別
■ 社会性	ない	排他的	道徳
■ 空間	住所不定	一家を構える	内外が生まれる観衆 拒絶と監視
■ 距離	ゼロに向かう	距離を取る	カテゴリーごとの距離の明確化
■ 模倣	拒否する(演出)	促す	距離化戦略(模倣の価値)
■ 関係	相対的	階層的	上昇志向
■ 変身	今ここ	未来	贈与



勢力の拡大を左右するモノ

- 観衆の評価
 - 共感関係
 - 詐欺は事件として発覚しない
 - 疑問の有無
 - ⇒ アイドル ミュージシャン コンサート=祭り =変身= 贈与
 - 観衆の同化
 - もしも……観衆の完全な排除ができたら
 - 純粋な詐欺師の相対の世界に酷似している
 - ⇒ 第三者視点を停止し、欺され続ける喜びを見いだす
 - この喜びがある限り権力と共犯関係=生き甲斐
 - 詐欺性をはらんでいることに疑いを抱かない
 - 誘惑されたいという無定形の欲望～秘密～だけに。=共有=投資=利益・救い



からくり

■ からくりとは

- 道徳的詐欺がどう行われているかの背景
- 知りながら欺されている = 欺されたい
- 観衆道徳の疑念 ○○資本の変身への期待
- 変身への期待 権力との共謀 = 純粋な詐欺師と同じ構図

■ 観衆に対処する術

- 信じやすい人 < 疑い深い人
- この対処法を知らない道徳的詐欺師は消えゆく



暴力

■ 秩序側の暴力

- 通過儀礼
- 教育による階層化
- ~ハラスメント

■ 消費者の暴力

- 変身への期待が等価ではない
- 集団暴力(価格・糾弾・引きずりおろしetc)



なぜ人は貢ぐのか

■ 2つの贈与

- 純粹贈与
- ⇒ 贈与と認知されない贈与 = 純粹贈与 (本来)
- 贈与 **交換** (不等価)
- ・贈与 = 贈る・受け取る・お返しをする義務 ⇒ 贈る側が優位
- ・当事者の間に不均衡を生む ≠ 市場経済

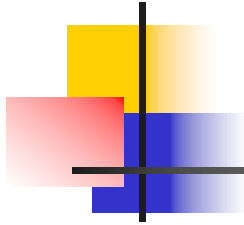
■ 交換は

- 一度始まると断ち切ることが出来ない
- 一種の「挑発」行為 ~ 暴力性をはらんでいる
- 「商取引は戦争の可能性を平和に解決したことを意味しており、戦争は取引が不幸にも失敗に終わった結果である」



詐欺師と道徳心

- 道徳は詐欺のための道具に過ぎない
 - 例: マルチ商法
- 資本の種類によって異なる道徳観
 - 経済資本
 - 文化資本
 - 学歴資本
 - 社会関係資本
- 道徳は表層的
 - 形式的に道徳を説き他人から贈与や利便を引き出している
- 道徳は常に批判される可能性がある
 - 暴力が必要ないほどに喜んでみんなが贈与する仕組み



■ 反復

- 一般性(他との交換可能な等価性ではない)
- 似たようなもの等価なモノが他にないような徳治で単一の何かとの関係で振る舞うこと。
- 反復＝祭り＝はじまりつまり変身である
- ⇒ 変身の期待感が贈与を引き出す
- (一般的な)交換は等価性を見いだすことが前提



差異が贈与を生む

- 2つの差異ともう一つの差異
 - 身分や地位
 - 他社であり異社会
 - 独創的なモノの反復



どうするのか？

■ 理解すべき7つのこと

- 個人
- 市場の等価性・贈与経済の不等価性
- 純粹な詐欺
- 道徳詐欺
- フレーム
- 贈与交換
- 差異のモデル

■ 贈与交換を引き出す

- 贈与は変身への期待から



自分の事業に活かす7つの質問

- 顧客をどの社会に固定しているか
- その社会からどんな差異をプレゼンしているか
- その差異はどんな変身を期待させられるのか
- その変身はいつ達成するのか
- どの〇〇資本を活用するのか
- 帰属する社会では希少な何を〇〇資本で架橋するのか
- どのように共同性・共謀をラッピングするのか
- 贈与交換サイクルを回し続けられるのか？



まとめ

「はじめに」で伝えたように「事業に活かす7つの質問」があります。
一回聞いた後に、「7つの質問」を携えて2回目を聞いてみて下さい。
きっと「こうしよう」「今はここが課題だな」が浮かび上がってくるはずです。

- ビジネス本よりの「わかりやすさ」を目的として解説しましたが
そもそもノウハウ本が原典ではないのでその分「わかりにくかった」
かもしれません。
自分で原典に当たって読み解くのが一番のアップデートになりますので
ぜひ、一度トライしてみてください。

株式会社 サポートプロ 西田光弘